

トウネツ：より環境に優しい未来のための工業炉

炭素排出量を削減するというトウネツの取り組みは、顧客の取り組みと密接に関連している。



トウネツ トマト農園 - 代表取締役社長の望月城也太氏と、会長の望月俊二氏

1981年に創業された株式会社トウネツ（以下、トウネツ）は、日本だけでなく、中国、インド、タイに拠点を置く工業炉の大手メーカーである。

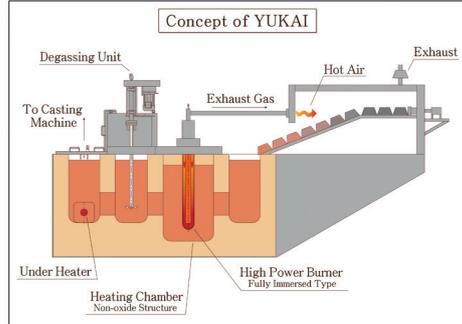
トウネツは、特に自動車産業向けのアルミ鋳造炉に特化している。よりクリーンで持続可能なエネルギー源を目指す中で電気自動車（EV）の市場シェアが拡大するにつれて、同社は顧客ニーズの変化に対応している。

「新製品は『YUKAI（湯解）』という名前である」とトウネツの望月城也太社長は言う。「この炉の特徴は、EVに使われるアルミを溶かすための炉で、より薄く、より高品質なものを作ることができる。」



「『YUKAI-湯解-』は、次世代の自動車業界で求められる要件に答え、熱効率を向上させるものです。」

株式会社トウネツ
代表取締役社長
望月 城也太



また、炉そのものも環境にやさしいと望月氏は指摘する。「従来の直火方式でアルミを溶かすと、水や二酸化炭素が大気中に放出されます。これをなくすために、無酸化環境で非直火式

によりアルミニウムを溶かして液体にしているのである。」

トウネツは、アジアに加え、アメリカやチェコのパイロテック社とも協力関係を結んでいる。「技術指導や工場見学、技術の共有などを行っている。」と望月

氏は言う。

知識を共有することは、トウネツの海外展開の鍵である。「我々の戦略は我々の特許のライセンスを与えることである。」と望月氏

は説明する。「我々は、特許が多くの国に拡大し、企業が我々のライセンスを使用できるようにすることを目指している。」



次世代型LP炉 - ALST

また、トウネツは65歳以上の定年退職者を雇用する農業事業も行っている。「会社を設立した会長が農業部門で働いているが、例えば自動運転トラックやGPSを使うなど、非常にハイテクである」と望月氏は言う。



www.globaltounetsu.com/en